

# 2016.6 2016.6 まちの誇り ぶち★まきらい

## 下関舞踊協会



「先帝祭」は下関市指定無形民俗文化財にも指定されています。

### 舞踊協会の成り立ち

昭和22年に下関の伝統文化を後世へ伝えていきたいという思いから、下関舞踊協会が発足しました。来年、創立70周年を迎える当会は、花柳流・板東流・藤間流・猿若流の4流派によって構成され、現在は約160人の会員がいます。

### 華やかな舞台 裏での厳しい稽古

優美な衣装をまとい、多くの人を魅了する華やかな舞台の裏側を取材しました。練習会場では緊張した空気が流れ、各流派の先生方や赤間神宮の担当者から指導が入ります。所作の一つ一つは意味を持ち、それを理解しながら心を込めて行います。

今回の先帝祭に参加する5人の太夫に話を聞きました。振袖太夫を務めた福永弥優さんは「着物を着ると背筋が伸び身が引き締まります」。2番太夫を務めた末武杏美さんは「2歳から日本舞踊をしているが日ごろから指先や所作に気を付けるようにしています」。今回、一般から参加し、3番太夫を務めた

小橋なつみさんは「最初は緊張したけど楽しい気持ちも芽生えました。同時にプレッシャーも感じるようになりました」。先帝祭は見る側だったのが自分が太夫を務めるとは「と4番太夫を務めた上野美恵さんは「違う役柄で先帝祭には参加してきましたが、経験と年齢を重ねてきました」と話してくれました。先帝祭は、本番当日、あいにくの雨模様でしたが、シーモール下関では5人の太夫や多くの参加者が素晴らしい演技を披露しました。

### 時代は変わっても思いはいつも同じ

「これからも下関舞踊協会は、歴史を後世に伝え、伝統文化を守るために、ボランティアで日本舞踊を教えるお手伝いをいたします。若い世代が、先帝祭や日本舞踊に興味をもってもらえるよう、今後とも尽力してまいります」と花柳佳寿広師匠は力強く語っていました。先帝祭は舞踊協会の会員だけでなく、一般の人の参加もできるようにになりました。新しい試みは、今後の下関の伝統文化の発展につながっていきます。

### 語り継がれる歴史物語

古くから下関には文字通り「関所」が置かれ、九州への玄関口として栄えました。歴史が変わるとき、下関はその舞台として数多くの文献でその名前が登場します。今回は、歴史を語り継ぎ、伝統文化を守り続ける「下関舞踊協会」を紹介します。

寿永4(1185)年平家は壇ノ浦で源氏に敗れました。わずか8歳だった安徳帝も、二位の尼に抱かれ入水され、平家は滅亡します。生き延びた平家の女官たちは安徳帝をしのび、命日には忘れることなく、参拝・香華を手向けました。

時代は変わり、平家の女官たちが絶えた後も、その歴史は語り継がれ、49年前から舞踊協会の奉仕で行われています。

「神事」と芸能の要素を併せ持つ

## 平成29年「先帝祭」の参加者を募集します

あなたも下関の歴史の語り部になってみませんか。日本舞踊初心者でも下関舞踊協会が基本から手ほどきします。来年の先帝祭に向けて、私たちと一緒に稽古に励みましょう。

関門先帝祭上ろう参拝行事実行委員会（下関観光コンベンション協会内）（☎ 223-1144）



本番前の練習に励む皆さん。

左から花柳佳寿広師匠、末武さん、福永さん、荒谷さん、小橋さん、上野さん